

# 中国・西安の医療、福祉関係機関と調印

公益財団法人「茨城国際親善厚生財団（IIF）」は5月13日、西安市で開かれた中日衛生健康産業フォーラムの席上、陝西省国防工業職業技術学院との間で、「国際交流提携合意書」の調印を行いました。合意書では、国際交流の中で教育事業の発展、および看護・介護福祉の人材育成を進めるとともに、中国学生を日本に留学や就職、技能実習を行っていくことを相互協力して行うことが記されています。

西安市によると、中国の平均寿命が70歳を超えて高齢者に対する療養から介護への流れが必要となり、日本のシステムを参考に中国での高齢化社会の在り方を模索しようと、初めて日本から医療・福祉関係者を招いて初めてのフォーラムが開かれました。

IIFでは2018年3月、介護職種の外国人技能実習生を受け入れる監理団体の許可を受け、今年1月に西安から実習生3人を受け入れています。今後も西安から技能実習生を受け入れるに当たり、多田正毅理事長、白井平八郎県議ら関係者が西安市を訪問、同フォーラムに参加しました。

フォーラムには、日本からIIFのほか、福祉や教育、監理団体など6団体が参加、中国側は西安市人民政府の李明遠市長など市要人や教育、医療関係者など約300人が出席し、交流を深めました。

西安市は陝西省の省都で、かつては長安と呼ばれ、2千数百年に及ぶ歴史を有するまちで、ユネスコの世界遺産に登録されているシルクロードの起点ともなっています。

一行は、介護などを担う第三愛心護理院、1000床の総合病院、済仁病院、1200床の大興病院を視察。また、歴史のまちとして、碑林博物館に続く書院門通りで歴史的な街並みを見学。陝西省歴史博物館や秦の始皇帝時代に副葬品として作られた巨大な兵馬俑なども視察しました。



陝西省国防工業職業技術学院の院長遠院長と調印した多田理事長



大興病院を視察する一行



第三愛心護理院を視察する一行



済仁病院を視察する一行



兵馬俑の遺跡出土品

